

泌尿紀要
Acta Urol. Jap.



Vol. 27, No. 11

ACTA UROLOGICA JAPONICA

November 1981

泌尿器科紀要

第27巻 第11号 1981年11月

Computed tomography による renal mass の診断.....増田富士男・ほか...1337

尿路系腫瘍における血清磷脂質 (英文)阿曾 佳郎・ほか...1345

泌尿器科領域における血清 ferritin の検討 (第1報)和志田裕人・ほか...1351

血精液症35例の経直腸的超音波断層法による検討.....稲葉 正・ほか...1355

両側同時腎摘した両側性腎癌の1例.....絹川 常郎・ほか...1361

Renal Arteriovenous Malformation に対する Transcatheter Embolization の経験三馬 省二・ほか...1367

腎静脈弁の1例.....川中 俊明・ほか...1377

エンドキサン投与により発生したと考えられる膀胱腫瘍の1例.....加藤 良成・ほか...1383

男子後部尿道ポリープの1例.....森山 正敏・井田 時雄...1389

乳癌原発の転移性尿道腫瘍の1例 (英文)田中 陽一・ほか...1393

多睾丸症の1例.....森山 正敏・井田 時雄...1399

原発性前立腺移行上皮癌の1例.....佐々木憲二・ほか...1405

RIA 法における血清中の前立腺性酸性ホスファターゼの検討

第1報: 基礎的検討と正常値について.....杉山 寿一・ほか...1415

進行性尿路性器癌に対する Cis-diamminedichloroplatinum の治療経験.....三崎 俊光・ほか...1427

前立腺癌に対する allylestrenal と 5-fluorouracil の併用投与の有効性に関する phase II study竹内 弘幸・山内 昭正...1437

近畿大学医学部泌尿器科学教室における3年間 (1978年より1980年まで) の手術症例について.....栗田 孝・ほか...1445

急性単純性膀胱炎に対する Cefradine (CED) の臨床効果.....兼松 稔・ほか...1455

複雑性尿路感染症における Fosfomycin Na の使用経験.....小松原秀一・ほか...1465

神経因性膀胱に対する Prazosin の効果.....香村 衡一・ほか...1473

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M.D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Kyoto Japan 606

京都大学医学部泌尿器科学教室

出 帯 禁
到着後 1ヶ月間

編集後記

国際学会に参加していつも思うのは英語での表現についてである。われわれ昭和一桁、あるいはそれに近い世代は小学生の頃はほとんど英語に接する機会がなかったが、これは大きなハンディ・キャップである。東南アジアとくにシンガポール、香港、フィリピンからの参加者が実に流暢な英語で発表し、討論し、また社交的でもあるのは、彼等が小学生の頃からよく英語に接し、英語でものを考える習慣を身につけているからである。

したがって、小さい頃からよく英語に接してきた今の若い医師達の英語、とくに英語での発表力、表現力は私の大いに期待するところであった。ところがこれには少なからず失望させられている。ひと昔前の2、3年の米国留学の経験しかない昭和一桁生れの教授達の方が、はるかによくcommunicateできるのである。もちろん発音はよくないし、イントネーションだって義理にもよいとはいえないが、相手のいうことを理解しこちらの考えていることを相手に伝えるという点においては、はるかにまさっている。

Young doctor 達よ！もっと英語を勉強し、英語での表現力を養ってほしい。そして国際的なマナーを身につけ、大いに活躍してほしい。
(O. Y.)

購読要項 (1981年1月改定)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料5,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先を記入のうえ編集部あて、はがきにて申し込む。

投稿規定 (1981年1月改定)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり総説、原著、症例報告、その他で和文または英文とする。
 - (1) 長さは制限しないが簡潔にする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプし、年号は西暦とする。
 - (i) 原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名の順に和文、英文で併記する。下段に筆頭著者名(山田：または山田・ほか：)と、2語(例：前立腺がん・PSAP)からなるrunning titleおよび5語(英文)以内のkey wordsを付す。
 - (ii) 英文抄録：ダブルスペースでタイプし、その和訳をつける。
 - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、key words(和文に準ず)、running title(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、抄録の順に記した和文抄録を付す。
 - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位はm, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, $^{\circ}$ C, pHなどとす。

- (5) 図、表、写真などはすべて別紙とし、写真はトリミングする。説明は和文、英文を問わず Table 1., Fig. 2. などとし、なるべく英文とする。原稿右欄外に挿入すべき位置を明示する。とくに図・表は必ずタイプまたは楷書で清書し、誤りのないことを確認する。様式については本誌の図・表を参照する。

- (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用個所を本文中に入れる。和文は楷書で、欧文はタイプする(例：山田^{1,3,7)}、田中ら^{1,3-10)}によると)。

雑誌の場合—著者名(全員)：題名。雑誌名、巻：最初頁～最終頁、発行年。

単行本の場合—著者名(全員)：題名。書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年。

- (7) 原稿は書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
- (8) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部が行なう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。
- (9) 編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。

3. 掲載

- (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
- (2) 紙代、印刷費および最初1頁の組版費は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後に行なう。
- (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機具の使用などにかんする研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。

4. 別刷

実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

編集委員：石神 襄次 前川 正信
園田 孝夫 友吉 唯夫

宮崎 重 新谷 浩
桐山 齋夫(副主幹) 吉田 修(主 幹)

泌尿器科紀要 第27巻 第11号 1981年11月25日 印刷 1981年11月30日 発行
創刊 稲田 務 顧問 加藤 篤二

発行 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要編集部

〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入